

## 令和3年度かながわ水源地域活性化計画フォローアップ会議開催結果

### 1 会議名

令和3年度かながわ水源地域活性化計画フォローアップ会議

### 2 開催概要

書面開催(詳細は、別添「令和3年度 かながわ水源地域活性化計画フォローアップ会議(書面) 開催要領」のとおり)

### 3 開催期間

令和4年2月28日(月)～令和4年3月14日(月)の15日間

### 4 議題

#### (1) 議決事項

議題1 議長の選任について

議題2 会議の公開方法(傍聴要領の策定)及び議事録の作成方法について

#### (2) 報告事項

報告1 「かながわ水源地域活性化計画」に基づく令和3年度の取組状況(概要)について

#### (3) 協議事項

協議1 令和4年度以降の「かながわ水源地域活性化計画」の方向性について

協議2 「かながわ水源地域の案内人」の方向性について

### 5 出席者

別添「かながわ水源地域活性化計画フォローアップ会議名簿」のとおり

### 6 開催結果

#### (1) 議決事項

議題1 委員長の選出について

賛成一致により、宮林 茂幸委員を議長とする(詳細は別紙1のとおり)。

議題2 会議の公開方法(傍聴要領の策定)及び議事録の作成方法について

賛成一致により、本委員会における議事録の作成方法並びに委員会の公開の可否及びその方法について、次のとおりとする(詳細は別紙1のとおり)。

#### 1 会議の公開

##### (1) 公開の可否

会議内容は、原則公開とする。

##### (2) 公開の方法

ア 書面開催

議事録を神奈川県ホームページ上に公開する。

イ 会議開催

別添「かながわ水源地域活性化計画フォローアップ会議傍聴要領」のとおり会議を公開し、併せて議事録を神奈川県ホームページ上に公開する。

2 議事録の作成方法

(1) 書面開催

各委員の意見の趣旨を変えない範囲で、回答書の要約を行い、作成する。  
なお、要約の方法は議長一任とする。

(2) 会議開催

協議の流れが分かる範囲で、各委員の発言内容の要約を行い、作成する。  
なお、要約の方法は議長一任とする。

(2) 報告事項

報告 1 「かながわ水源地域活性化計画」に基づく令和3年度<sup>1</sup>の取組状況(概要)  
について

別添「かながわ水源地域活性化計画フォローアップ会議資料」により報告した。

(3) 協議事項

協議 1 令和4年度以降の「かながわ水源地域活性化計画」の方向性について  
別紙2のとおり。

協議 2 「かながわ水源地域の案内人」の方向性について  
別紙2のとおり。

7 次回開催

令和4年度の開催を予定

# 令和3年度 かながわ水源地域活性化計画フォローアップ会議(書面) 開催要領

## 1 議題

### (1) 議決事項

議題1 議長の選任について

議題2 会議の公開方法(傍聴要領の策定)及び議事録の作成方法について

### (2) 報告事項

報告1 「かながわ水源地域活性化計画」に基づく令和3年度の取組状況(概要)について

### (3) 協議事項

協議1 令和4年度以降の「かながわ水源地域活性化計画」の方向性について

協議2 「かながわ水源地域の案内人」の方向性について

## 2 開催期間

令和4年2月28日(月)から令和4年3月14日(月)までの15日間

## 3 開催方法

別添の回答書に、各議題に対する表決又は意見を記入いただき、署名のうえ、返送用封筒にて「2 開催期間」内に返送をお願いします(回答の期限は令和4年3月14日(必着)となります)。記入済の回答書の返送をもって会議の出席とさせていただきます。

なお、別添の回答書によらず、任意の様式により回答していただいても構いません。

## 4 議決方法等

### (1) 議決事項

議決事項は、委員のみが回答し、委員(議題1については、議長として選出された委員を除く)の過半数の賛成をもって可決とします。なお、「3 開催方法」に記載する期限までに回答がない場合はそれぞれの議題について賛成したものとみなします。

### (2) 協議事項

協議事項は、委員及びアドバイザーが回答し、回答書の記載内容をそれぞれの意見とします。

## 5 開催結果の通知

議決に従い作成した議事録を開催期間終了後に報告します。あわせて、議決に従い議事録を県のホームページで公開します。

## 6 送付物

- ・ 令和3年度かながわ水源地域活性化計画フォローアップ会議資料
- ・ かながわ水源地域活性化計画～やまなみ五湖の豊かな地域づくりに向けて～
- ・ 回答書
- ・ 返信用封筒

## 7 問合せ先

神奈川県政策局政策部土地水資源対策課 武田、高橋

電話 045(210)3123(直通)

ファクシミリ 045(210)8820

電子メール takeda.ph6@pref.kanagawa.lg.jp

かながわ水源地域活性化計画フォローアップ会議 名簿

(1) 委員

	氏名	所属等
1	みやばやし 宮林 茂幸	東京農業大学客員教授
2	わしお 鷺尾 裕子	松蔭大学観光メディア文化学部教授
3	なかざと 中里 正巳	(一社)相模湖観光協会事務局長
4	いしだ 石田 貴久	石田林商代表、 かながわ水源地域の案内人(山北町)
5	よねた 米田 博行	芳雅美術工芸代表、 かながわ水源地域の案内人(愛川町)
6	いわさわ 岩澤 克美	NPO法人「結の樹 よってけし」理事長、 かながわ水源地域の案内人(清川村)
7	みやざき 宮崎 仁男	(公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団常務理事
8	うちだ 内田 和也	相模原市緑区役所津久井まちづくりセンター所長
9	すずき 鈴木 和夫	相模原市緑区役所藤野まちづくりセンター所長
10	わだ 和田 薫	山北町農林課長
11	さいとう 齋藤 伸介	愛川町環境経済部商工観光課長
12	やまだ 山田 晴久	清川村産業観光課長

(2) アドバイザー

	氏名	所属等
1	いりえ 入江 彰昭	東京農業大学地域環境科学部教授

(3) 事務局

	氏名	職名
1	こが 古賀 信也	神奈川県政策局政策部土地水資源対策課長
2	いしい 石井 幸介	神奈川県県央地域県政総合センター企画調整部長
3	いそざき 磯崎 孝喜	神奈川県県西地域県政総合センター企画調整部長

## 令和3年度会議の開催結果(議決事項)

	氏名	議題 1	議題 2
1	宮林 茂幸 委員		
2	鷺尾 裕子 委員	賛成	賛成
3	中里 正巳 委員	賛成	賛成
4	石田 貴久 委員	賛成	賛成
5	米田 博行 委員	賛成	賛成
6	岩澤 克美 委員	賛成	賛成
7	宮崎 仁男 委員	賛成	賛成
8	内田 和也 委員	賛成	賛成
9	鈴木 和夫 委員	賛成	賛成
10	和田 薫 委員	賛成	賛成
11	齋藤 伸介 委員	賛成	賛成
12	山田 晴久 委員	賛成	賛成
	計	賛成11、反対0	賛成11、反対0
	結果	可決	可決

## 令和3年度会議の開催結果(協議事項)

## 協議 1 令和4年度以降の「かながわ水源地域活性化計画」の方向性について

宮林委員

コロナ禍において、暮らしの価値観が大きく転換している。例えば、観光・レクリエーションにおいては、家族グループないしは小グループにおいて、ますます自然志向型が顕著になっている。それは、世帯主のワーケーション等の展開が進み、農山漁村や自然公園等の豊かな自然環境の中で、5泊など中長期滞在型に変化し、しかも、レクリエーションの形態としては、従来のような散策や農林漁業体験型に加えて、森のカフェ、森のヨガ、快適な睡眠あるいは安心・安全な食などへの関心が高まっている。

水源地域にこうしたニーズに応える施設あるいは資源が、季節的、時間的にリアルタイムでどのように配置されており、どのように活用することが可能かについて明らかにすることが必要といえる。その中で、ニーズに応じた体験メニューやストレス解消メニューが家族や小グループで享受できるための、リアルタイムによる情報の受発信に関する整備が必要である。

そのためには、今日における利用者目線での水源地域に対する体験・レクリエーションニーズの把握が必要(利用者ニーズ(ニーズ調査)の把握が必要)である。

さらに、受け入れ側である水源地域の目線からのニーズに対応した、体験メニュー、施設、場所、季節性などに関する情報の整備(シーズ調査)が必要である。

これらについては、地元主導型の議論が必要であり、できれば協議会にオブザーバーを交えたコンソーシアムによるプラットフォームを設けて、水源地域コロナ型レクリエーションパンフの作成など、地元における共通認識を醸成することが必要である。

環境問題(環境危機)・SDGsとの関わりでは、企業の環境貢献(ESG投資・グリーンファンド)や環境教育(ESD)との関連で、地域をPRする戦略が必要である。

企業の環境貢献については、森林整備、農地(農業)保全、地域材利用(木材や水源地グッズ)、地域づくりあるいは人材育成等に積極的に参加する企業に対して、県あるいは水源地域独自の環境貢献評価基準を設け、認定登録するとともに、県の広報誌やHPで公開評価をしてみてもどうか(協議会が中心となり作成し、県とのWクレジットでの設置等)。

環境教育については、文部科学省のESDとの関わりで、水源地域でしかできない環境教育カリキュラム(水に特化、水源地の生き物、食べ物、遊び等)を作成し、具体的な内容について下流域ないしは県域の小中学校などに情報をリアルタイムに受発信する体制を整えること(水源地域案内人の人員増加と強化)が必要である。

	<p>活性化計画の方向性の基本路線は良いとして、以上述べたようなニュー・ノーマルやSDGsに対応した方向に転換すべきと思われる。</p>
鷺尾委員	<p>コロナ禍で、子ども達の遊びが制限されていることが気になっている。「やまなみ五湖」の緑と水が、子ども達の当たり前前の遊び場となればと思う。この事業での下流域の学校との交流事業が、学びの場ではなく、遊びの場として、一助となることを期待したい。</p> <p>「やまなみ五湖」の知名度アップに関して、「食」と関連付けるのが良いではないかと思う。新しい生活様式に対応して、ネット通販を活用できないか。簡単なことではないが、例えば、関係市町村のふるさと納税の返礼品に「やまなみグッズ」として加えてもらう。返礼品を選ぶときに、選んでもらえなかったとして、調べてみるという行動につながることを期待できると思う。</p>
中里委員	<p>方向性については賛成する。</p> <p>「制度・事業の柔軟な運用」については、令和4年度においてもコロナウイルスの感染については収まらないと予想されることから、多くの人が集まるイベントについては、中止になることが予想される。</p> <p>コロナ感染状況が収束するまでは、各エリアの中の水源に係る場所(ダム・資料館等)をめぐるスタンプラリー等、少人数で参加できるイベントの運用が可能と思われる。</p>
石田委員	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのイベントが中止となり、地域の、活動に影響が出たことは確かであるが、一方で、これまでボランティアやイベントへの強制参加を促され、負担を強いられた地域住民の中には「ホッ」としている人も少なくない。この事実を踏まえ、地域でイベントを開催することの意義を再度問い直さなければならないと思う。</p> <p>今後の計画の方向性には、おおむね賛成。引き続き「イベントをやりたい人」への支援を継続してほしい。そのためには、市町村が住民に対する発信を増やしていく必要がある(HPにイベント情報が掲載できるといった計画の取組の共有がなされていないと思う)。</p> <p>より地域住民に近い立場から積極的に動いてほしい(市町村の担当課が地域内でのイベント情報を把握し知らせることや、「神奈川やまなみ五湖नावい」(HP)に掲載するように働きかけること等)。</p>
米田委員	<p>「かながわ水源地域活性化計画」の方向性については、「かながわ水源地域活性化計画」の策定時に検討した結果であり、方向性として妥当であると考える。</p> <p>制度・事業の柔軟な運用については、『エリアごとの魅力を生かした事業の支援』の計画なかで、宮ヶ瀬エリア活性化事業の対象地域については愛川町も定義されている。そこで、具体例として愛川町を通して流れる『宮ヶ瀬ダム下流・中津川の活用』という視点で、地域の活性化について検討する。</p>

	<p><b>【中津川の現状】</b></p> <p>中津川は、宮ヶ瀬ダムが建設されるまでは暴れ川的な状態で、地域の親達は子供らに川でなるべく遊ばないよう言い聞かせていたと伝えられている。</p> <p>また、急流で中洲が洗い流されるため地に栄養分が少なく、その環境に適した『河原野菊』の自生地であった。しかし宮ヶ瀬ダムが完成した事により、前述した暴れ川状態のようなことは殆どなくなり、環境が一変し『河原野菊』の絶滅が危惧されている。</p> <p><b>【中津川で活動する団体】</b></p> <p>中津川の環境が一変したことにより、中洲・河原は洗い流される機会が激減し雑木林化して以前の風景と大きく変わった。そこで環境を整備しようと、現在下記のような団体が活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中洲・河原を以前のような環境に戻そうと雑木の撤去等をする団体</li> <li>・ 河原の雑草を刈って川辺を整備し、憩いの場を提供しようとする団体</li> <li>・ 穏やかになった河原に増えたキャンプ客に向け、キャンプのマナーといった適切なルールを広め環境を整備する団体</li> <li>・ 中津川を含め愛川町の魅力を発信し、全国から参加者が集まる「アドベンチャーレース」を企画・実施している団体</li> </ul> <p><b>【中津川の活用と地域の活性化】</b></p> <p>宮ヶ瀬エリアのダム周辺は、「県立あいかわ公園」等施設が充実しており来訪者も多いが、地域活性化としては限定的である。</p> <p>中津川については、その流域を生活の場としている住民が非常に多い。その環境を良くすれば来訪者の増加が期待できると同時に、流域を生活の場としている住民との交流の増加も期待できる。その橋渡しとなるのが、中津川で活動する団体が位置付けられるのではないだろうか。</p> <p>「来訪者」と「流域を生活の場としている住民」、「活動する団体」の三者の関係性を構築する事が、地域活性化のキーポイントとなると思う。</p>
岩澤委員	<p>宮ヶ瀬周辺に来る来訪者は、魅力的な一コマを切り抜きSNSへの投稿によって大勢の興味ある人に対して日々発信しています。投稿者それぞれが、「宮ヶ瀬好き」「清川村好き」目線で切り取り、フォロワーが多い投稿者であればあるほど情報の信頼性が高く、影響力が高く、貴重な情報源になっている。</p> <p>コロナ禍で集客やイベントが滞る中でも、宮ヶ瀬の魅力を発信している方は数多く、「行きたいけど今はいけない」「でも落ち着いたらいきたい」「今の情報を知りたい」人に対して、#(ハッシュタグ)検索で投稿を見た人と共感し、コロナ禍明けの期待を高めてもらうことは可能である。また投稿が積み重なりSNS上に増えれば増えるほど、より人の目に留まりやすくなる</p>



	<p>効果も得られるため、Instagram や SNS 投稿をする「発信力が高い人と連携」することで、地域の魅力発信が高まるのではないかと思います。</p> <p>「水源地域の案内人」としての意見は、このコロナ禍において誰もが大変な時であり、誰もが変革期で何か行動を起こさないといけないと思っている。私達も同様 Instagram に力を入れたことで、新規来店者の増加が結果としてあった。それは、インスタグラマーを指導しているプロの方から直接指導して頂いたことが大きかった。</p> <p>「案内人」に対し直接的な支援を頂く事で増える、「計画や予算、書面」の事務量よりも、「地域の魅力を知っている案内人×情報発信のプロ」をセットして魅力ある情報発信に予算付けされれば、互いの強みを生かせ、かつ案内人にも負担が少なく、案内人の発信のスキルも同時に得られるのではないかと思います。プロの講座も魅力的ですが、一過性に過ぎず、継続して力を蓄えるには、直接指導が一番だと身をもって感じている。</p>
宮崎委員	<p>令和 4 年度以降の方向性に対して賛成する。</p> <p>コロナ禍における活動は様々な制約があり難しいが、必要に応じて制度を柔軟に運用することはやむを得ないことであると思われ、記載されているように、県が主導して提案しないと足並みがそろわないと思う。</p>
内田委員	<p>○ 課題解決に向けた方向性について</p> <p>認知度の向上について、今までに課題に挙がっていたにも関わらず改善に向かっていないことから、継続的な発信に併せて新たな発信方法を検討する必要がある。</p> <p>担い手の確保について、従来「里の案内人」制度を活用し水源地域の魅力発信に努めていたことと思うが、名ばかりの制度となっていたため、案内人の活動を積極的に支援できる制度へ改善していくことが望まれる。</p> <p>新型コロナの影響により、地域団体が行っている事業(自然体験交流事業、上下流域自治体間交流事業)の多くが中止となっている実情であるため、事業や制度の柔軟な運用を行う必要がある。</p> <p>○ 制度・事業の柔軟な運用について</p> <p>エリアごとの魅力を生かした事業として、エリアごとの PR となるパンフレットやマップの作成は現計画に根差した良い事業と考えるが、地域団体へどのような取組依頼を行うことを想定しているのか。</p>
鈴木委員	<p>以下の項目は、地域団体等と協力して実現することが可能と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験教室や交流プログラム等の特集デジタルパンフレットの作成</li> <li>・ 特産品の食べ比べマップの作成</li> </ul> <p>また、以下の項目に賛同する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特産品やイベント等への支援強化</li> <li>・ 新たな行動様式を踏まえたイベント等のモデル例の検討</li> <li>・ 来訪者への水源地域に対するニーズ調査の継続</li> </ul>

和田委員	意見なし
齋藤委員	意見なし
山田委員	意見なし
入江 アドバイザー	<p>○ 認知度 「水源地域の魅力」の計測的な発信 「水源地域の魅力」とは何か。水源からのイメージするもの(モノ)、暮らし文化生業(コト)、人(ヒト)など、地域住民や都市住民とともに地元学的思考、ワークショップしながら、あるもの探しすると明確にならないか。それらを、より明確化するために、数値やしくみ図、地図で見えるようにできるとよいと思う。</p> <p>○ 担い手の確保 「かながわ水源地域の案内人」制度の改善 関係人口やリピーターを目指したプログラム、人材育成の取組になるとよいと思う。そのためには、案内人の方々は、地域文化を支え継承してこられた古老や、集落リーダーとの交流は欠かせないと思われる。</p> <p>○ 新たな行動様式への対応 事業・制度の柔軟な運用 新たな仕事様式として、ワーケーションやリモートワークが進みつつあるなかで、半農半×副業、連携などのシェアリングと、資源循環型の社会を意識したレクリエーション活動や短期滞在型の営みができるサービス事業もあると思われる。</p>

## 協議 2 「かながわ水源地域の案内人」の方向性について

宮林委員	<p>「水源地域活性化における案内人の役割を」明確にする。仮に、「水源地域を紹介する人」とするならば、ダムの案内人、森の案内人、川の案内人、水の案内人、昆虫の案内人、動物の案内人、魚の案内人、漬物の案内人、郷土料理の案内人、レストラン案内人(地域の食材や水あるいは容器の使用にこだわりのあるレストランやカフェ・食堂・民宿・旅館など)、遊びの案内人、景観の案内人、街中(まちなか)の案内人等の関わりを具体的に、案内人リストを作成する必要がある。</p> <p>案内人の登録制度は、地域内や地域外から案内人を登録し、地域内では自薦他薦により、水源地域の案内ができる人材(先に述べたよう水源地にかかわるお話ができる方)を一括整理(氏名、年齢、ジャンル、連絡先)する。森林インストラクターやCONE、森のガイドなど既に他の登録制度にかかわっている方も参加できることとするのはどうか。</p> <p>例えば、色々な案内人を組み合わせた水源地案内ツアーを作成、ダムの案内と景観と森と食を合わせた水源地ダムツアー(1泊2日で3万円程度)のような、何を体験できるか、得られるメリットは何か、案内はだれかなどを明確にして、ツアー商品(高額でよい)を整備するのはどうか。</p> <p>水源地域で実装可能で、水源地域ならではのツアーを案内人が連携して、ルート化し、HPや旅行会社等と連携してPRする。案内人ツアーの里のような仕組みを協議会で審議し、実装化するといった仕組みを整備してはどうか。</p> <p>なお、案内人養成のための研修会(意見交換会)年に2回くらい開催することも必要である。</p>
鷺尾委員	<p>「かながわ水源地域の案内人」についても、新しい生活様式に対応してオンラインで活動できる仕組みを作るとか、また、地元の方ではなくても、例えばイベント等に継続して参加してくれている家族やグループ、個人の方に「かながわ水源地域の案内人」として、SNS等で情報発信してもらえたらと思う。</p> <p>コロナ禍での密を避けて、現地に行かなくても参加できるオンライン型のスタンプラリーや謎解きゲームが人気があるようで、それをまねて、「やまなみ五湖」のHP内に、案内人からのクイズを掲載する、回答を送る方法はあるが、案内人とのオンライン上の交流を生み出す工夫があれば良いと思う。</p>
中里委員	<p>「かながわ水源地域の案内人」の方向性については賛成する。</p> <p>水源地域案内人の計画上の各取組については、案内人の取組分野が多く、今の段階ではこれ以上の具体的な支援の内容は思いつかない。</p>
石田委員	<p>これから変わっていくのだと思うが、名前を変えただけで何も変わっていないのではないかという疑問がある。</p>

	<p>負担を押し付けあっているような現状はどうしても変えたいと思う。山北町に関して言えば、(案内人を)辞めたいが、後任を決めないと辞められないという空気感がある。それは絶対におかしいと感じる。</p> <p>以前から実施している「神奈川やまなみ五湖n a v i」(HP)への案内人のインタビューの掲載をまた実施してほしいと思う。</p>
米田委員	<p>「かながわ水源地域の案内人」の方向性については、『かながわ水源地域活性化計画』の策定時に検討した結果であり、方向性として妥当であると考ええる。</p> <p>具体的に計画上の各取組において、どのような支援が可能かについては、次のとおりである。</p> <p>まず、『かながわ水源地域の案内人』の位置付けについては、案内人各々個人は、案内人制度の中でどこに位置付けられるのか。目的に、登録された案内人への支援を行うと定義されているが、「どのような手続きをすれば支援が受けられるのか」、「その窓口がどこなのか」が分からない。実施体制の図の中で、実際に活動する際の案内人の役割を、具体的に明示する必要があると考える。</p> <p>次に、案内人の具体的支援策(どのような支援が可能か)については、どのような活動団体があって、どの様な支援を求めているのか把握しなければ、支援策を勘案できない。先の地域活性化の中でも述べたように、愛川町には既に地域活性化のため独自の活動をしている団体が多数ある。このことから他地域にも同様な活動をしている団体が数多くあるのではないかと考えられる。そうした団体の実態を把握するために「水源地域における活動団体の実態調査」や「各団体がどのような支援を必要としているかの把握」のような方策が必要ではないか。補助金等については、活動団体がどのような補助金に応募しているかの調査も加えることで、類推可能ではないか(上記調査に当たるためにも、前述の案内人の位置付けを明確にする必要がある)。</p> <p>また、事態を把握することにより次のとおり進めていくことが可能になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案内人に向けての支援策として、事務局が考えられる具体策の検討。提案できる「支援策メニュー」の作成。</li> <li>・ 団体に対する具体的な支援策の提示。「かながわ水源地域の案内人」参加団体の公募。</li> <li>・ 「かながわ水源地域の案内人」の選定・登録。活動に対する具体的な支援策の決定。</li> <li>・ 活動に対する支援の実施。</li> <li>・ (実施後に)成果・改善策の検討</li> </ul>
岩澤委員	<p>「案内人」とは直接、何かや誰かに対して、案内人が行動することであるとすれば、今のコロナ禍において、全員が「これ以上何か負担を強いられる</p>

	<p>ことは無理」である。日々頑張っていることに上乗せの事より、県がリーダーをとる事業、主体は県、その事に案内人が協力する形が、この時期においてはいいのではないかと思う。</p> <p>この時期は、動かす事ではなく、育てる事に支援をして欲しいと思う。協議 1 でも記載したように、案内人の既に持っている活動や情報に対して、人を派遣することで得られる情報発信の結果の方が、大きな成果になるのではないではないか。</p> <p>都市地域住民と里の案内人を繋ぐ仕組みでコーディネーターが必要であると、以前より提案してきたが、コロナ禍の時代の変化により、人が動くことで得られる活性化ではなく、動いている人から得られる情報を集約すること、する場所が大事である。</p> <p>また、案内人は積極的に情報発信をする人になれば、#(ハッシュタグ)検索でその案内人に会いに来るという流れもできるし、実際にできている(先週も私に会いに来られたお客様で、移住を検討している方がいる)。</p> <p>情報発信はプロと一体となり、一緒に考えて魅力的な発信をこまめにすることが必要になるが、案内人しか知らない、貴重でタイムリーな情報を、一番魅力的に発信できれば、案内人の価値をあげることになるのではないか。</p>
宮崎委員	<p>それぞれのエリアごとの魅力に惹かれ活動している個人や団体が数多く存在する。</p> <p>活動の内容はあまり制限せず、このような人達を案内人として登録し、それぞれの団体等の活動そのものを計画の取組に位置付け、水源地域の魅力を発信してもらえれば、案内人としての負担も少なく多くの登録も期待できると思う。</p> <p>団体が行っている活動内容のPRやイベント等の情報発信、活動の支援ができれば案内人にとっても大きなメリットとなると考える。</p>
内田委員	<p>「特産品の支援」に対する具体的な支援内容について、案内人個人が生産する製品自体がそもそも少ないように感じ、個人に対して製品の生産に対する支援を行うことは難しいように思われる。水源地域における特産品を案内人が推薦し、やまなみグッズのようなブランドとして認定するような活動も良いと思われる(この場合、既存のやまなみグッズと優劣が付かないように配慮することが必要)。</p> <p>「水源地域の『魅力』を発信できる人々の支援」について、案内人同士の情報共有を行う場所の提供はもちろんのことだが、「エリアごとの『魅力』を生かした事業の支援」の具体的な内容にあるように、情報を得た後の活動に移すため、幅広い財政的な支援が一番重要である。また、金銭が関わることにより案内人としてのメリットが生じ、積極的な活動へ繋がると思われる。</p>

	<p>現状の自然体験交流事業は要綱上、「特定非営利活動法人や実行委員会等の団体に限る」となっており、かながわ水源地域の案内人個人として行いたいという要望もあるため、案内人としてのイベントの企画、実施が可能な制度の検討が必要と考える。</p>
鈴木委員	<p>案内人の活動内容や位置づけを明確にすること、また活動PR支援及び財政的支援については、後継者・協力者の育成に直接つながると考えられるため、賛同する。</p> <p>また、以下の支援が可能と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案内人の活動を市の広報やHPでPRする。</li> <li>・ 同じような活動をしている案内人や団体同士の連携を支援する。</li> <li>・ 案内人募集にあたって、市の広報やHPを活用する。</li> </ul>
和田委員	意見なし
齋藤委員	意見なし
山田委員	意見なし
入江 アドバイザー	<p>かながわ水源地域の案内人の活動の1つに、水源地域の里の暮らしや営み、源流文化を楽しみながら「体験する」ことで、交流を通じて学び知ることの面白さ楽しさに興味津々、また訪れたいと思える行動につながるプログラム、人材育成の取組となるとよいと思われる。</p> <p>そのため、案内人は、水源地域の源流文化とは何か、あるもの探しの地元学を、地域文化を継承してきた古老をはじめとする地域住民とともに、進めていけるとよいと思う。</p>

## その他(自由意見)

宮林委員	<p>本事業で最大の課題は、いかに地元主体で活性化事業が動くかということにある。水源地域には豊かな自然と優れた里山文化が培われてきた。こうした水源地域の歴史文化は、環境危機やコロナ禍において、安心・安全で持続的な暮らしを確保するには絶好の条件にある。</p> <p>特に神奈川県にとって、水源地域は県民の健康で、安心して安全な暮らしを育むためには、これ以上水源地域を荒廃させ、解体させることは大きな損失となる。</p> <p>したがって、水源地域を守り、安定的に持続し、発展させることは、ひとり水源地のみならず県民の課題でもある。それは、2018年に国連が提唱したSDGsの精神とも一致しており、誰一人とも取り残さず、健全な環境と豊かな社会そして安定した経済を育むためにも重要な位置づけになってくる。</p> <p>つまり、水源地域の保全是、未来永劫、豊かな県民生活を確保するために欠くことのできない自然資源であり、県民全体で守り、育んでゆくことが重要で、それは今までの市場経済優先の経済至上主義とは異なって、豊かで、安全な、安心できる暮らしを守る社会経済の発展へという、県民全層での価値観の転換が必要である。その時代にきている。</p> <p>加えてコロナ禍においては、食糧やエネルギーの需給問題が明らかとなり、特に、食糧自給率の向上は国家の安全保障問題となっている。</p> <p>水源地域は、戦後のモノカルチャー主義による生産拡大や消費拡大の推進によって、地域農業や地域林業など水源地域を支えた基幹産業は、大きく縮小ないしは解体している。このまま続くようなことになると、将来大きな負の遺産を次世代に受け継ぐことになるだろう。</p> <p>こうした問題は、神奈川県に限ったことではなく、全国の水源地域が抱えている課題であるが、下流域に横浜をはじめ巨大な都市を抱えている神奈川県が全国に先駆けて、上流・中流・下流のネットワークと連携を結ぶ地域づくり、流域社会経済圏を構築することは、わが国の国益に大きく貢献することになるものと思われる。</p> <p>今後とも水源地域の活性化を県民運動として発展させ、豊かな県土と県民生活の礎を築いていくことに期待したい。</p>
鷺尾委員	意見なし
中里委員	意見なし
石田委員	意見なし
米田委員	<p>○ クロスメディアによる情報発信について</p> <p>計画に実施体制の各組織間の連携について示されているが、個々組織の運営するサイトと「神奈川やまなみ五湖n a v i」(HP)が、単なるリンク集の中の存在でしかない。互いの情報のやり取りが一目瞭然に理</p>

	<p>解できるよう、メインページの中で認識できる情報のオーバーラップ等の工夫が必要と考える。</p> <p>○ 特産品への支援について</p> <p>コロナ過でイベントの開催が困難な実情は理解するが、やまなみグッズの弱点は、常時『やまなみグッズ』の全容を、実際に目を見て、手に触れ購入することの出来る場がない事ではないだろうか。イベントを開催して、実際に触れて頂く機会を作る事も大事だが、一過性である事は否めないと思う。現状では、次回を心待ちにさせていただく「おなじみさん」を作る事は不可能である。</p> <p>「おなじみさん」を醸成するには、メインとなるベースが必要ではないか。協議会が管理する施設等の利用も含め、検討してはどうか。</p> <p>○ エリアごとの魅力を活かした事業の支援について</p> <p>本事業の「地域からの提案の実現を支援する制度を創設」について「どの様な団体が」、「どこを通じて提案し」、「どの様な組織がその提案を受け審査、承認し」、「どの様な形で承認の通知が出され」、「具体的な支援内容はどのようなものだったのか」、また「実施後の成果等の報告はどこにあり」、「どこを通じて実施したのか」といった制度における一連の手続きを明確にすることにより、「かながわ水源地域の案内人」にどのような支援が可能か等の検討材料になるのではないかと思う。</p> <p>○ フォローアップ会議について</p> <p>今回は書面開催であったが、今後は、可能であれば、書面と会議の併用とすると会議参加者がどのような考えを持って参加するのか事前に理解できるので、会議の中身が更に濃いものになるのではないかと思う。</p>
岩澤委員	意見なし
宮崎委員	意見なし
内田委員	<p>かながわ水源地域活性化計画の取組7(交流を通じた共通理解の促進)の構成事業の1つである体験交流支援事業について、平成31(令和元)年度から執行方法の見直しにより、従来よりも手続が大変煩雑となり、事業者が大変苦慮している。マニュアルやよくある指摘事項のQ&amp;Aの作成等により、県の担当者についても事業者へ寄り添った負担軽減を検討し、実行していただきたい。</p>
鈴木委員	意見なし
和田委員	意見なし
齋藤委員	意見なし
山田委員	意見なし
入江 アドバイザー	<p>かながわ水源地域に軸足を置き、流域スケールや景観(ランドスケープ)スケール、里山(集落小流域)スケールで、暮らし生活や生業営み、歴史文化</p>



	をとらえてみると、かながわ水源地域、ここならではの魅力が再発見されることもある。かながわ水源地域は、多くの魅力をもつ地域のように思えた。
--	--